豊田地域医療センター再整備基本設計概要

高齢者の増加に伴う疾病構造の変化に合わせた増床と建物の老朽化に対応するため、豊田地域医療センターの再整備を行い、豊田市民の安心・安全を確保します。

1　再整備後に医療センターが担う機能

基本コンセプト
『お年寄りに優しい医療を目指す』

1 高齢者医療機能
2 在宅医療支援機能
3 健康診断機能
4 救急医療機能
5 看護師養成機能

2　配置計画等

○整備概要

- 新棟は、低層階に診療機能をまとめて配置し、高層階に合計１９０床の病棟を配置します。
- 比較的新しい南棟と西棟は、改修し引き続き使用します。南棟は、診療機能と直接関係の少ない健診部門と管理部門を配置し、西棟は医療環境の変化に合わせて必要な機能を整備します。
- **分かりやすい駐車場**
  来院用の駐車場は、分かりやすく利用しやすい各棟の入口近くに必要台数を配置し、混雑を解消します。また、西側道路からは、来院者、救急の入口とし、サービス車両は南側からの動線とします。
- **大きなひさしの設置**
  ロータリーと建物の間には大きなひさしを設け、雨や日差しから来院者を守ります。また、災害時のトリアージや応急処置のスペースとしても活用します。

3　整備計画

実施期間
実施期間（期間中に休止時期あり）

年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
設　計	←基本設計→		←実施設計→					★新棟開院	★完了
解　体			←附属建物解体（旧感染症病棟・体育館）→					←北中・MRI 棟解体→	
建　物					←新棟建設→				
外　構				←駐車場造成→	←部分改修→			←改修→	←外構→
工　期			Ⅰ期		Ⅱ期			Ⅲ期	Ⅳ期

診療を続けながら建設工事を行います。
機能移転は、Ⅱ期工事後に診療機能と病棟を全て移転し、Ⅲ期工事後、健診部門と管理部門を移転します。

- 新棟の建設地にある、休日診療所、旧感染症病棟、体育館を解体
- 駐車場を造成

- 新棟建設
- 南棟１階の健診部門を一部改修

- 新棟完成
- 移転後、既存棟を改修（西棟の改修内容は未定）
- 北棟、中棟、ＭＲＩ棟を解体

- 外構整備
- 整備完了

建 設 地　豊田市西山町３丁目３０番地１
敷地面積　36,824.16 ㎡
階　　数
新棟地上７階、南棟地上４階、西棟地上２階
構　　造
新棟/免震構造、南棟・西棟/耐震構造
延床面積
新棟　約 15,630 ㎡、南棟 6,723.00 ㎡
西棟 2,261.75 ㎡、渡り廊下　約 140 ㎡
病 床 数
１９０床（一般病床１００床/療養病床５０床/回復期リハビリテーション病棟４０床）
診療科目（１３診療科）
内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、放射線科、外科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、泌尿器科、小児科、歯科
駐車台数
来院者用　約１７０台　その他　約２８０台
事業費
１６０億円（うち改修費は、南棟改修部分のみ）

4　設計コンセプトと特徴

1　患者目線で優しい環境

- 快適な環境で治療を受けられるように**療養環境を向上**させます。
- いつでも看護師に**見守られている安心感のある病棟**をつくります。
- 来院者が分かりやすく、効率的な医療サービスを受けられるように**シンプルな動線**にします。
- 高齢者の増加に対応し、付き添う**家族との憩いの場**を確保します。

2　地域医療の推進

- 在宅復帰支援を進めるため**リハビリ環境を向上**させます。
- 利用者の利便向上と多職種連携を強化するため**在宅医療と介護関連機能を集約**します。
- 高齢者の総合診療体制の維持と医師の確保のために**総合診療専門医育成の場**をつくります。
- 市民の健康維持の一助となるため健診を始めとした**健康増進の場**をつくります。

《各階構成図》

新棟構成

- 診療機能と病棟を新棟に集約し、効率的に医療を提供します。
- １階は、来院者が直接利用しない機能を配置します。
- ２階は、メインエントランスを設け、来院者が直接利用する機能を配置します。
- 外来と病棟から利用しやすい３階は、リハビリ室と外とのつながりのある屋上庭園を設けます。
- 眺めの良い４階以上は、病棟を配置します。

南棟構成

- １、２階に健診部門を配置します。
- ２階の新棟から利用しやすい位置にレストランと売店を配置します。
- ３階は管理部門を集約し、医師やスタッフの連携を考慮します。
- ４階には会議室を配置し、市民向けの講座にも活用します。

西棟構成

- 医療環境の変化に合わせ、必要な機能を検討します。

<外来待合イメージ>

その他

≪木の活用≫
　天井や壁、インテリアに木を使用し、自然素材の温かみや風合いを感じさせる空間にします。
≪環境配慮≫
　外気の影響を受けにくい建物構造や高効率の機器や設備を採用し、省エネ化を図ります。また、太陽熱など再生可能エネルギーを活用し、環境に配慮します。
≪災害対応≫
　新棟は、震災後でも病院機能を維持させるため免震構造の採用や電気引込の多重化対応等を行います。また、トリアージや応急処置のスペースとして、エントランス周辺に必要な設備を設置します。

1　患者目線で優しい環境

<メインエントランスイメージ>

療養環境の向上

- 車椅子でも動きやすいようにベッド周りやトイレ内の必要スペースを確保します。
- 個室割合を増やし、プライベートな空間を増やします。
- 早く良くなろうと前向きな気持ちで療養できるように見晴らしがよい病室を多く確保し、大きい窓や効果的な空調換気設備を設置し、快適な病室にします。
- すべての個室にトイレと洗面を設置し、共用トイレは、各病室の近くに分散して配置します。

シンプルな動線

- メインエントランスに入ったときに受付、病棟へのエレベーターなど目的の場所が入口から見える分かりやすい配置にします。
- 従来よりも患者の移動が少なく、救急時に迅速な対応ができるように外来待合のまわりに診察室や処置室、検査室を集約します。
- 病棟は患者や見舞者が迷わないように見通しのよいシンプルな形にします。
- 健診受診者専用の入口を設けると共に、病院内でも患者と動線が交差しないよう配慮します。
- 院内感染を防止するため、感染症患者の動線は、一般患者とは区別して確保します。

<回復期リハビリ病棟イメージ>

見守られている安心感がある病棟

- 異変を察知できるように死角の少ない病室配置や見渡しやすいスタッフステーションを設けます。
- 認知症や容体が安定しない患者のための観察室を設置します。
- 認知症患者の安全確保や不審者の侵入を防ぐため、夜間はセキュリティゾーンを設置します。

家族との憩いの場

- 家族との憩いのスペースは、病室以外に明るいデイルーム、景色が良く安らぎのある屋上庭園などを確保します。個室の一部には家族も利用可能なシャワー室を設けています。

2　地域医療の推進

在宅医療と介護関連機能の集約

- 訪問診療、訪問看護、相談も含めた在宅療養に関する機能（地域支援部門）を集約し、ワンストップサービスを提供します。
- 医療と介護の連携強化のため基幹包括支援センターを配置します。

<リハビリ室イメージ>

リハビリ環境の向上

- 通所リハビリや将来のリハビリ機能の需要を見据えたスペースを確保し、リハビリ機能を強化します。
- 患者の回復に合わせ、効果的なリハビリが行えるようにリハビリ室から屋上庭園、外構へとつながりを持たせます。
- リハビリ室は、屋上庭園からの目線に配慮しながらも、見晴らしのよい環境にします。
- 回復期の病棟は、ベッドサイドのスペースが広く日常生活動作訓練のしやすい病室を採用します。

総合診療専門医の育成の場

- 診察室を増やし、新たに設置される総合診療専門医の学びの場を確保します。

健康増進の場

- 健診は、将来の健診機能強化に対応できるよう拡張性を持たせ、必要な面積を確保します。
- 健診フロアの婦人科検診は分かりやすい女性専用のエリアに区切ります。
- 屋上庭園や既存の建物を活用し、市民の健康維持に取り組みます。